

【第3分科会】提案（A） 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実

[助言者]	広島県西部教育事務所芸北支所	支所長	溝口 直子
[発表者]	北広島町 大朝中学校	校長	竹中 英之
[司会者]	北広島町 芸北中学校	校長	森近 泰典
[運営委員]	東広島市 中央中学校	校長	小島 弘之
[記録者]	東広島市 安芸津中学校	校長	岩本 幸子

1 はじめに

我が国では、終身雇用や年功序列を前提とした安定的な雇用モデルが揺らぎ、非正規雇用の増加や転職の一般化など、働き方が大きく変化している。加えて、グローバル化や産業構造の転換、少子高齢化とそれに伴う労働人口の減少、急速なAIの進展は、知識量だけでなく主体性や協働性、個の自立を求める社会への転換を促した。そのように社会が大きく変化している只中、学校は不登校生徒の増加、学習意欲の低下などの課題に直面しており、「何のために学ぶのか」という問いを突きつけられている。それはすなわち、社会的・職業的自立に向けた力を育てるキャリア教育の推進が強く求められているということである。

中学校学習指導要領総則では、キャリア教育について「生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成すること」を重視する旨が示されており、教育活動全体を通してその充実を図ることが求められている。これは、特定の教科や行事に限定するものではなく、日々の授業や学級活動、学校行事などあらゆる教育活動の中で、生徒が自己の生き方を考え、主体的に進路を選択しようとする態度を育むことを意味する。すなわちキャリア教育とは、将来の職業選択の指導にとどまらず、自己理解と社会理解を深め、変化の激しい社会をたくましく生きる力を育てる営みであるといえる。それらをふまえ、本校では主体的に行動できる生徒を育成するべく、地域の協力の下で様々な体験的な学習を仕組むなど、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動をすすめている。

2 学校や地域の状況

本校は、広島県北西部、中国地方のほぼ中央に位置し、北は島根県に隣接する北広島町にある。豊かな田園風景の広がる町で、町内には神楽などの多くの伝統芸能が残っている。中でも、北広島町壬生に伝わる「壬生の花田植」は、平成23年にユネスコの無形文化遺産に登録された。中山間地域に位置する本校の校区内には公立小学校は1校がある。また、創立110年を超える私立高校とその附設中学校もあり、校区の児童の中には小学校卒業後はこちらに進学する児童も一定数いる。本校の生徒数は年々減少し、現在では40名を下回っており、今後もその傾向が続くものと思われる。

北広島町は、令和5年12月に策定した「第3期北広島町教育大綱」の中で、「教育の基本目標」のひとつとして「ふるさとを愛し、地域を担う人材の育成」を掲げている。その中では「学校づくりは地域づくりでもあります。学校と地域が双方向で関わることにより、子供たちは多くの大人に見守られ、元気な大人の姿に憧れ、ふるさとへの愛着を深め、色々な体験をすることで自信と誇りを持ち、『北広島町に住み、北広島町のために貢献する』子供が育成でき

るものと考えます。」としている。これを踏まえて、地域とつながり、地域から学ぶキャリア教育を推進していくことが大切であると考えている。

3 実践について

(1) 生徒の実態と本校がキャリア教育に取り組んできた背景

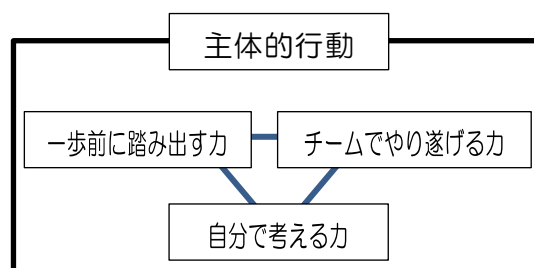
本校の生徒は、素直で何事にも精一杯取り組む生徒であるが、幼いときから同じ集団で育ち、人間関係が固定化されていることから周囲の反応や受け止めが気になり、自分の思いや考えをうまく表現できなかつたり、発言力のある生徒のみの意見で物事が進んだりする傾向がある。また、小規模校で目が行き届きやすいため、指導者が細かく丁寧に指導したり支援したりすることができるよさがある一方で、生徒自らが人間関係を構築したり修復したりする力や、自力で課題を解決する力が弱いともいえる。そのような中、令和3年度から令和5年度までの3年間、広島県教育委員会から「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け、『社会に開かれた教育課程』の視点で、基礎的・汎用的な能力の向上に向けて取り組んできたことをベースとして、主体的な学びを引き出す授業づくりを中心に据えて人・学校・地域に自ら関わり、課題を解決しようとする生徒の育成を目指してキャリア教育の充実を中核としたカリキュラムを開発・実践してきた。当時の研究の成果を学校の財産として受け継ぎ、現在の取組につなげている。

(2) 研究の実際

ア 資質・能力を身に付けさせるための取組

① 資質・能力の整理

身に付けさせたい資質・能力を「主体的行動」に設定した。これまで、「主体的行動」の具体的な姿として「一歩前に踏み出す力」、「チームでやり遂げる力」「自分で考える力」とし、「3つの力」のルーブリックを作成した。



「3つの力」のルーブリック

一歩前に踏み出す力 = 物事や課題に進んで取り組む についてのルーブリック

	Level1	Level2	Level3
基本形	間違いを恐れず、自分の意見を出している。	色々なアプローチをして自分の考えをもったり、よりよくなるように行動したりしている。	仲間との学びから自分の考えをバージョンアップしている。
具体的な姿	- 自分の意見を言う。 - 自分の意見を書く。 - 歌や作品などで表現する。 - 実行してみる。	- 具体的な質問をする。 - 他者の考えを聞いて自分の考えを考え直す。 - 他のやり方や表現がないかを考え、改善する。 - 様々な方法を考えて実行する。 - 何度も繰り返し練習する。	- 他者の意見を聞いて自分の考えを深める。 - 他者の意見や方法から新たな考えを創造する。

チームでやり遂げる力 ＝ 話し合いの場面でよりよい解や案を出す についてのルーブリック

	Level1	Level2	Level3
基本形	班で発言したり、ルールを守って行動したりすることができる。	話し合いを深めたり、仲間に助言したりすることができる。	仲間の意見を引き出したり、まとめたりすることができる。
具体的な姿	- 自分の役割を果たす。 - 自分の意見を班で言う。 - 運動したり、練習する。 - 歌ったり、製作を行う。	- 共通点や相違点を考える。 - 仲間の意見に付け加える。 - 意見を比較して分類する。 - アドバイスする。	- 仲間に質問する。 - 仲間の意見を引き出す。 - 仲間の意見を踏まえてまとめる。 - 仲間の意見を言い換える。

自分で考える力 ＝ 自分で課題を発見し、見通しを持って解決する についてのルーブリック

	Level1	Level2	Level3
基本形	課題解決しようと自分なりに計画や方法などを考えている。	経験や習ったことをもとにして、期限や課題解決までの計画や方法を考えることができる。	課題を見つけ、計画や方法を改善したり軌道修正したりすることができる。
具体的な姿	- 興味・関心をもつ。 - 先生や友達に質問する。 「わからない」、「できない」と言える。 - 先生や友達の作業を観察する。 - 他者の意見を聞こうとする。 - 計画を立てる。	- 教科書やノートを見返す。 - 辞書等で調べてみる。 - インターネット等で検索する。 - 方法を選択して、課題解決までの手順を考える。 - 計画を立てて、実行する。	- 次の課題や、他の場合を考える。 - 練習方法を変更する。 - 学習の仕方を変える。 - 状況に応じて計画を修正する。

②資質・能力育成のための各教科の取組（一部教科抜粋）

	一歩前に踏み出す力	チームでやり遂げる力	自分で考える力
国語	課題を解決しようと、間違いを恐れずに、自分の意見を出している。	班活動の場面で、自分の意見を述べたり、他の人の意見から自分の考えを広げたりしている。	課題に向けて見通しを立てたり、振り返ったりしている。
理科	既習事項を用いて、実験・観察の結果を考察し、事象を説明する。	班で活動する場面などで、自分の役割を自覚し行動する。	既習事項などを活用して、実験方法や調査方法を考える。
家庭	班活動で意見を聞き、新たな視点を取り入れることができる。	班活動や実習でお互いに助け合いや、聞くことができる。	課題に対して学習内容をもとに自分なりの解決方法を考える。

イ 教育活動全体でキャリア教育を推進していく取組

① 学びをつなぐ目標設定・振り返り

特別活動こそキャリア教育の出番であると考えている。しかし、これまでの反省として、行事の目標設定や振り返りが単発で終わり、次の行事に生かされていないという課題があった。そこで学びを途切れさせない連続性のある振り返りを目指してこうと、大朝中の3つの学校行事について1枚ものの振り返り用紙を作成した。身に付

三大学行事の目標・振り返りシート

けさせたい3つの力の視点で目標を設定させ、振り返った内容には教職員や保護者からキャリアカウンセリングとなるような肯定的なコメントなど意図的な仕掛けをすることで生徒の振り返りの質が向上することを目指している。

資質・能力の育成を目指した特別活動の計画の例

実施月	行事	取組の手順
5月	小中合同運動会	①行事の学年リーダーと指導者が各学年の目標を決める。 ②学年の目標から個人目標を立てる。 ③ループリック評価を用いて行事前に目標到達レベルに○を記入する。
7月	いじめ〇の会	④行事の練習に取り組む。 ⑤指導者は練習の段階で目標に照らし合わせて生徒に声かけをする。 ⑥ループリック評価を用いて行事途中に目標到達レベルに○を記入する。
10月	文化発表会	⑦行事後に、生徒は目標に照らし合わせて振り返りを書く。 ⑧ループリック評価を用いて行事後に目標到達レベルに○を記入する。 ⑨指導者は振り返りシートに生徒が設定した資質・能力の目標に対してコメントを書き生徒に返却し、次の行事に生かす。

② 資質・能力の向上にむけた授業づくり
各教科において、生徒にキャリア教育の資質・能力を高めるために、「教科の目標を達成すること」、「授業の中にキャリア教育の掲げた資質・能力を発揮できる場面を見出すこと」、「キャリア教育の資質・能力が発揮できる場面で意図的・積極的に働きかけていくこと」、「資質・能力の視点での振り返りの場面を設定すること」の4点を心がけている。



3つの資質・能力を教室掲示

ウ 社会に開かれた教育課程の視点からの取組

生徒の資質・能力の育成に向け、「社会に開かれた教育課程」の視点で、地域や産業界との連携による取組みを積極的に開発し、実践している。

① 職場体験学習

本校の職場体験活動は、これまで生徒が職業調べ等を行い、自分が将来就きたい職業又はその職業に近い仕事を行っている事業所で5日間の職場体験活動を実施するという流れをとっていた。生徒の希望を尊重するという利点がある一方で、「この職場体験を通して生徒一人ひとりの資質・能力をどのようにして育成していくか」という点において課題が残っていた。そこで本校では、次のような手順で資質・能力の向上に資する職場体験活動を仕組んでいる。



牧場での職場体験

職場体験活動の実施の流れ

- i 「社会人基礎力行動変容評価」で自己分析
- ii 「事業所の紹介」と「事業所で求められる資質・能力」の求人票をデータ化・掲示
- iii 自己分析結果と求人票にある「事業所が求める資質・能力」をもとに事業所を選定
- iv 職場体験の実施
- v 終了後、事業所からのコメントと「ループリック表」を用いた自己評価の実施
- vi 事業所の方、保護者、在校生にまとめを発表

② 町内企業訪問

令和7年度から北広島町教育委員会の主導で「企業訪問」が実施されている。少子高齢化が進む本町においては、若年層の町内事業所への就労促進が大きな課題となっており、中学生のうちからふるさと北広島町で働くことをイメージしやすくすることが期待されている。町内事業所、北広島町教育委員会、中学校が連携して訪問先や見学の内容などを決定している。

③ 出前授業

学んでいることが生活とつながっていることを実感するとともに、この地域ではなかなか話を聞くことのできない職業人から話を聞いて自分の今後の生き方につなげることをねらいとして実施している。

これまでに実施した出前授業（抜粋）

- 「災害の現場から（道徳）」 防衛省自衛隊広島地方協力本部
- 「広報誌のデザインから学ぶ（総合）」 北広島町役場総務部
- 「将来を設計しよう」 日本生命
- 「やりたい仕事」と「なりたい仕事」 起業家

④ 外部人材による面接体験

校区内の事業所の人事・採用に関わる方を紹介して頂き、面接を実施している。面接官の視点から自分の将来や生き方、見方や考え方についての具体的な助言をいただくことで、生徒自身がこれまでよりも深く自分を見つめ、今後の生活に具体的に生かすことができるようになることをねらいとしている。

面接体験の実施内容

- i 面接官の方に連携シートで目的・内容を事前に説明
- ii 生徒への事前指導（本校職員）
- iii 生徒のメモを面接官に事前配布
- iv 面接体験
- v 面接官から生徒にアドバイス



面接のようす

⑤ 高校説明会

本校の進路説明会は、本校から近隣の高等学校に進学した先輩と教職員を招いて高校生活等について話をしていただいている。これまで身近な存在であった先輩たちが学校の代表として母校に戻り、高校生活のことを堂々と説明する姿を見ることは、生徒自身が数年後の自分を想起し、卒業後の進路に向けて前向きに考えるきっかけとなっている。



卒業生による高校説明会

⑥ テングシデカレンダー販売（学校運営協議会の協力）

1年生が近隣の道の駅で「テングシデカレンダー」を販売するにあたり、学校運営協議会のメンバーに販売練習時のお客さん役になってもらい、「もっと大きな声でしたほうがよい」、「質問に答えられるようにしっかり調べておいた方がいい」などと具体的なアドバイスをいただいている。



カレンダー販売の練習

4 成果と課題

〔令和7年度 学校生活の充実のためのアンケート より〕

質 問	肯定的回答
「一歩前に踏み出す力」を意識して行動しています。	81.3%
「チームでやり遂げる力」を意識して行動しています。	90.6%
「自分で考える力」を意識して行動しています。	90.6%
すすんで地域の行事に参加しています。	90.6%
将来、何らかの方法で北広島町に貢献したいと思います。	78.1%

○教職員が3つの資質・能力を育成することを共通認識としてもち、教育活動全般をすすめることができている。また、「三人行事振り返りシート」の取組や「3つの資質・能力」の教室掲示等で生徒に意識付けすることができている。

○一連の取り組みを通して地域人材や事業所等の掘り起こしが進み、協力的な関係を構築、継続することができている。

●資質・能力の向上に向けて、平素の授業の中で生徒自身が学び方を選択できるようにするなど、主体的な学びを引き出すような授業改善が必要である。

●「地域の学校」としては、少子高齢化や人口減少等の地域課題をふまえ、その解決に資するキャリア教育を進めていくという視点も大切にしなければならない。学校運営協議会等の場を利用して、地域の声に耳を傾けながら、教育内容をアップデートしていく必要がある。

5 おわりに

本校は、令和3年度から令和5年度までの3年間、広島県教育委員会から「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け、『社会に開かれた教育課程』の視点で、基礎的・汎用的な能力の向上に向けて取り組んできたことをベースとしてのキャリア教育を推進してきた。生徒たちが、不透明で正解のないこれからの社会の中で、自らの生き方を選択し主体的に生きていくためには「一歩前に踏み出す力」、「チームでやり遂げる力」、「自分で考える力」が必要不可欠であると考えている。加えて、過疎化と人口減少が続く北広島町においては、地域を愛し、地域未来を担う人材の育成が求められているという点も忘れてはならない。「地域が中学校にどのようなキャリア教育を期待しているのか」という視点を持ちながら、学校教育目標「大朝を愛し、進んで学び続けるたくましい生徒の育成」のもと、これからの教育活動の基盤にキャリア教育を据えて取り組みを進めていきたい。

